

強風と大雨に対する技術対策について

平成 27 年(2015 年)10 月 1 日

農業技術課

1 共通

- (1) 気象情報に十分留意するとともに、滞水しやすいほ場では排水が速やかに行われるよう、ほ場の周辺や排水路の点検を行う。ただし、風雨が強く、危険が予想される場合は、ほ場見回りや作業等は極力避ける。
- (2) 河川や用水の増水により冠水しやすい場所では、事前に機械類等を移動しておく。
- (3) 突風に備えて、果樹や野菜・花き類の支柱、施設・温室の外周りなどを点検・補強する。特に、傷んだ箇所や負担の大きい箇所に注意する。
- (4) 天候回復後の対策として農薬散布を行う際には、最新の使用基準を遵守する。

2 園芸・農業用施設全般

- (1) 強風に備えて、ハウスや畜舎及び堆肥施設等の破損部の修理、支柱・筋交い等の補強を行う。特にパイプハウスは強風による被害を受けやすいので、ハウスやフィルムが飛ばされないよう、らせん杭の設置やフィルム押さえバンド、フィルム留め具等の点検を行っておく。また、収穫物がある施設では、周囲に排水溝を設け、増水による冠水害を防ぐ。
- (2) サイドフィルムのあるパイプハウスでは、サイドフィルムを下ろし、妻部分もフィルムで覆ってすきま風が入らないようにし、天候回復後は速やかにハウス内の換気を図る。ただし、日中気温の高い状態では、ハウス内の作物を優先させて開放とする。
- (3) 雨よけ施設では、事前にフィルムの巻き上げを行い、施設の損壊を防ぐ。
- (4) 収穫終了後など使用していないハウスは、被覆資材（フィルムやネット等）を取り外して風圧による損壊を防ぐ。
- (5) 強風により倒壊が心配される場合は、最終手段として被覆フィルムを切り裂き、風圧を軽減する手段も検討する。ただし、強風の中の作業は大変危険なので、安全性に十分配慮して作業を行う。
- (6) 防鳥ネット、防雹ネット、日焼け防止ネット（寒冷紗）設置園では、風の状況によりネットの巻き取りや除去を行う。

3 水稲

- (1) 収穫適期を迎えているほ場では、なるべく早急に刈取りを実施する。
- (2) 架干しは、倒れないように補強する。倒れた場合には早急に立て直し、乾燥を促して穂発芽を防ぐ。
- (3) 浸水、冠水した水田は速やかな排水に努め、特に倒伏した水田は、早急に排水して引き起し、茎葉の腐敗や穂発芽を防止する。また、穂の乾き具合を確認して出来るだけ速やかに刈取り、乾燥調製を行う。

4 大豆・そば

- (1) 浸水・冠水した場合は、直ちに排水する。
- (2) そばで収穫適期を迎えているほ場では、天候悪化の前に、早急に刈取りを実施する。

5 果樹

- (1) 収穫中のりんごは、できるだけ収穫を急ぐ。
これから収穫期を迎えるりんご品種は、JAや集出荷業者等と十分協議の上、収穫可能な品

質に達している果実を収穫する。

なお、収穫に当たっては農薬使用基準（収穫前日数）を遵守するとともに、未熟果は収穫しないようにする。

(2) 収穫中の棚果樹（ぶどう等）は、できるだけ収穫を急ぐ。

これから収穫する果実が多い場合は、棚の周囲に防風ネット等を張り、風による果実の落果や枝の損傷を防ぐ。また、棚の上下動に伴う枝の損傷や果実落果を防ぐために、アンカーの補強、棚線の締め直し、ゆるんだ誘引部の補強等を行う。特にAマストの棚は、強風により棚全体が上下動しやすいので、アンカーを入れ、引き張り線を4方向に張るとよい。

(3) 雨よけなどの被覆資材は除去するか、風の抵抗を受けないようにしっかりと巻き上げ固定する。

(4) 強風に備えて、防風ネットの点検、樹体への支柱の追加、主枝の固定等を実際に行う。特に立木果樹は幹の日焼けや病害（腐らん病など）の部位から折れやすいので、確実に固定する。

(5) 立木果樹で3～6年生程度の若木は、強風で倒伏しやすい。着果の有無にかかわらず、主幹部に支柱を添え、トレリスの固定を確認する。

(6) 養成中の苗木は、倒伏防止のため支柱を立て、固定する。特に、フェザーや側枝の多く発生した苗木は支柱に誘引するとともに、苗木列の両端にもしっかりとした支柱を追加して針金を渡し、各支柱を針金に固定する。

(7) 防鳥ネットは除去しておく。

6 野菜、花き

(1) アスパラガスは、気象情報等に注意し、風圧による雨よけハウスの損傷・倒壊を防ぐため、被覆資材を撤去、又は巻き上げる。アスパラガスが、倒伏した場合は、養分転流を妨げることのないよう茎葉を起こす。

(2) 雨除けハウレンソウは、収穫を終了した施設の被覆資材は撤去又は巻き上げ、風圧による倒壊を防ぐ。収穫前の施設は、強風により施設が損壊・倒壊しそうな場合、緊急対策として被覆資材のビニールを切り裂き、風圧を軽減する。

(3) 雨よけのトマト・きゅうりは、収穫が終盤となっているので、強風により施設が損壊・倒壊しそうな場合、緊急対策として被覆資材のビニールを切り裂き施設の倒壊を防ぐ。

(4) ながいも、花き類（りんどう、ゆり等）などは支柱の補強やフラワーネットの補修を行い、強風による倒伏と茎葉等の損傷を防ぐ。

(5) 長時間の滞水に見舞われると、生育不良や病害の発生が懸念されるので、滞水しやすいほ場では周囲へ排水溝を設置して、早期排水に努める。

7 畜産

(1) 畜舎周辺を点検し、雨水の流入、浸水等がないように周囲に排水溝を設ける。

(2) ハウス畜舎、堆肥舎は破損部の補修、支柱・筋交い等の補強により倒壊を防ぐ。特に強風によりフィルムが飛ばされないようフィルム押さえバンドを点検する。

(3) 停電に備え、搾乳機やバルククーラーの電源確保のための自家発電機の点検を行うとともに、発電機の入手については、JA等関係団体と連携をとり対応する。

8 菌茸

(1) 停電が発生し室温と外気温の差が大きい場合は、短時間であればドアの開閉を控える。

(2) 停電が長時間に渡る場合は、施設内の温度上昇に留意して適宜、換気を行う。

(3) 施設が浸水した場合は、次の対策を行う。

・電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。

- ・収穫できるものは、早めに収穫、包装する。
 - ・生育中、水がかかった生産物は速やかに施設外へ搬出し、処分する。
 - ・室内の浄化を図るため、施設を空にして水で泥等を洗浄する。
- (4) 洗浄後は、除菌剤（0.1～0.05%次亜塩素酸ナトリウム）を散布し、乾燥する。
オゾンガス発生装置がある場合は、オゾン処理方法に従って除菌する。
- (5) 次亜塩素酸ナトリウム散布直後の培養基の搬入は、発生不良となる場合があるので、十分換気してから搬入する。